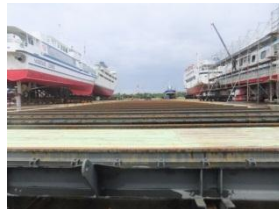




沖縄県糸満市視察報告

平成27年5月27日～28日



気仙沼市朝日町造船施設整備に係る環境対策評価委員会



視察の概要

目的: 糸満市での造船団地整備に伴う、水産業や水産加工業、観光業への影響や、共存に向けた取組みについて学ぶとともに、新糸満造船(株)のシップリフトシステムを始めとした造船施設等を見学し、気仙沼市における造船所の環境対策評価に反映させることを目的とする。

日程: 平成27年5月27日～28日 1泊2日

訪問先: 糸満市役所, 糸満漁業協同組合, 新糸満造船株式会社

参加者: ●委員 (10名)

西村委員長, 清水副委員長, 今岡委員, 宮城委員, 岡本委員,
吉田委員, 齋藤委員, 大坪委員, 佐藤委員, 加藤委員

●委員代理 (2名)

佐藤俊章氏(小野寺益男委員代理)

武田覚氏(清水徹二委員代理)

●事務局 (4名)

計16名



①糸満市役所，糸満漁業協同組合

内 容：糸満市における造船業と水産業、観光業との両立の状況についてヒアリングを行った。
対 応 者：糸満市経済観光部海人課 三浦部長，大城課長，金城係長，大城主査
糸満漁業協同組合加工課 大城課長

<糸満市の概要>

- 位 置 沖縄本島の最南端、那覇市から南へ12Km
気 象 亜熱帯海洋性気候 年平均気温は22℃～23℃
年較差が小さく四季の変化に乏しい。
降水量は年間2,000mm前後。
- 人 口 59,723人(平成27年3月末現在)
- 面 積 46.63平方キロメートル
- 産 業 農水産業の1次産業が中心。
水産加工業も盛んである。
- 水産業 県唯一の第3種漁港
主要魚種 マグロ、イカ類、タイ類、シイラ
養殖魚種 タマン、マダイ、海ブドウなど
 - 農業
主要産品 さとうきび、野菜、花き
(肉用牛、豚の畜産も盛ん)





②糸満市周辺空撮図



○造船団地整備前後のと水産業、観光業との関係について

- ・造船団地整備前は、湾奥に造船所が立地していたため、漁港を利用する漁船や水産加工業の集積地区へのアクセスが悪く、水産業に影響があった。
- ・旧市街地に立地していた小規模造船所は、海に面していなかったことから、上下架用の斜路がなく、漁船の修理に支障があったが、団地整備後は、機能充実や効率化が図られ、県内外の中型～大型船の修理補修も可能となり、水産業の振興に大きく貢献している。
- ・造船所をフィッシャリーナ背後に集約したため、観光船やレジャー船の修理点検の増加も見込まれ、観光振興に果たす役割も大きい。

○造船団地整備による風評被害等の有無とその内容について

- ・周辺の食品加工団地(約20社)との距離は直線で最短700m。
- ・造船所近隣に大型ホテルやフィッシャリーナ、水産加工団地があるが、市に対して騒音や粉じん等に関する苦情はない。
- ・県事業で那覇市内に県漁連が開設する泊市場を糸満漁港に移転させる計画も進行している。

○造船団地整備前後の養殖業への影響について

- ・船の出入りによる漁場、養殖施設への影響や、造船所からの排水に対する苦情はない。
- ・水質に関して漁港を管理する県水産公社に確認したが、影響はでていない。

○漁業から見た造船施設に対する考え方について

- ・水産業は、糸満市にとって重要な産業であるが、造船業と共に成り立つものと考えている。
- ・新糸満造船付近では真鯛の養殖が盛んで、周辺では海ブドウも養殖されており、水質に関して、漁港を管理する県水産公社に確認したが影響はでていない。
- ・糸満漁協では、ソデイカの加工場、マグロやメカジキ等の加工を行っているが工場もあるが、造船所があるからといって風評被害等のトラブルは全くない。

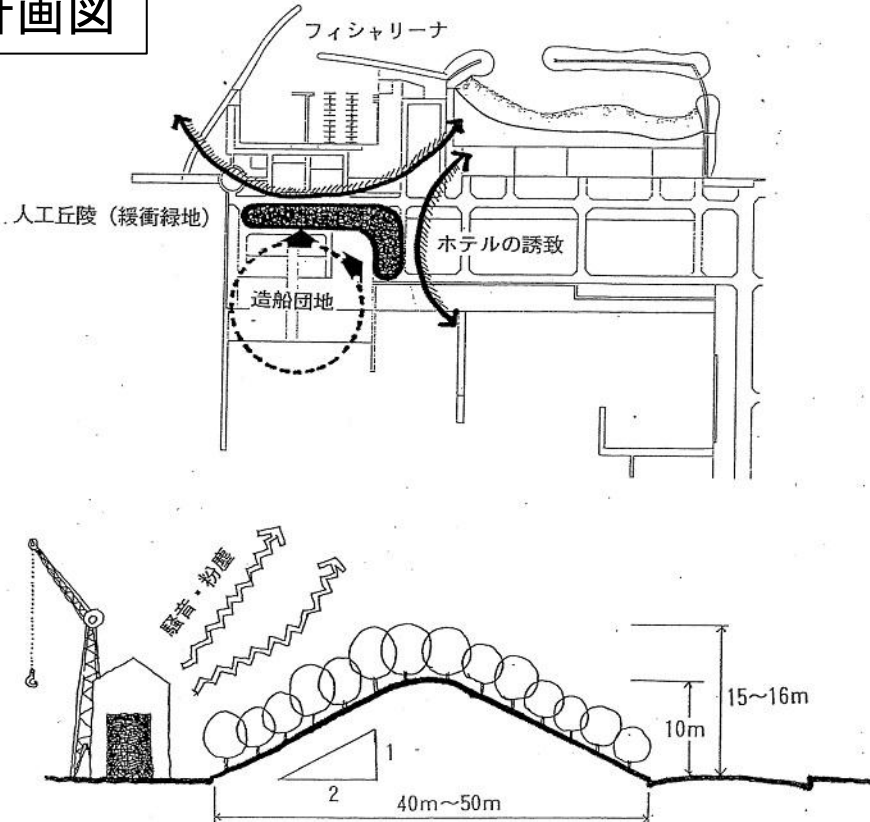


緩衝緑地帯

- ・周辺観光施設への騒音・粉じん防止対策や視覚的效果を狙い、緩衝緑地によって造船団地を分離し環境や景観に配慮している。
- ・騒音、粉じん防止のため丘陵の高さ10m、樹高5mの計画をしたが、実際には丘陵が3～5m、樹木は2m程度となっている。
- ・夏は南風、冬は北風になるが、ホテル、フィッシャリーナ、水産加工会社等からの苦情は1件もない。

計画図

図3-4-4 緩衝緑地帯（人工緑地丘陵）の整備イメージ



出典：糸満マリノバージョン関連
土地利用基本計画調査報告書

現地写真

←新糸満造船

ホテル→



台風の上陸も多く、安全上、高木は植栽できない。

緩衝緑地帯の両側には、白い車輦が多数駐車していたが、塗料付着等の苦情はないとのことであった。





新系満造船株式会社

内 容: シップリフトの設備と新系満造船での環境対策について現地調査を行った。

説明者: 松浦社長, 阪本専務, 慶田元工場長

【会社概要】

商 号 新系満造船株式会社

代表者 代表取締役社長 松浦 快奏

資本金 4,697万円

設 立 昭和28年10月

シップリフトについて

稼動 平成18年 8月(国内2例目)

能力 最大昇降荷重 5,000トン

全長85メートル

従業員数 事務系 11名 技術系 7名

鉄 工 29名 仕 上 22名

塗装工 14名 上架員 5名

木 工 1名 雑役工 7名

電 気 2名 計 98名



シップリフト



縦行レールを引くローダー



平坦な作業ヤード



施設見学

塗装作業



・ヤードが平坦であるため、高所作業車も使用して塗装作業を行う。
・吹き付け作業時にも防塵ネットは展張しておらず、強風時は作業を中止している。



・剥離し落下した塗料片は、毎月ロードスweeperをレンタルし、場内清掃を行っている。

排水

・施設内から排出される雨水と作業水は海に放流している。
・不純物は側溝を流れる間に沈殿しており、堆積状況を見ながら清掃している。
・油分が流れる事はないが、仮に流れたとしても、施設内が見渡せるため柵に入る前の早期発見・対応が可能であり、側溝の距離も長くしてあるため、海に出る前に対処することができる。



施設内を巡回している排水溝。
最終的には、海に放流される。





施設見学

エンジン洗浄の工夫

- ・可動式の台車にエンジンを積み、四方を囲んだ小屋内に引き込んで高圧洗浄する。
- ・洗浄したエンジンは奥の修繕工場内に引き込まれる。
- ・洗浄には、環境負荷がない重曹を使っている。
- ・洗浄した排水は、修繕工場内及び屋外の浄化設備を経由して油分と分離し、海に放流している。
- ・分離した油等は、廃棄物処理業者に回収を依頼している。



廃棄物

- ・船体に付着していた牡蠣殻や砂は回収所に集め、産業廃棄物として業者に回収を依頼している。
- ・残塗料や洗浄に使ったシンナーなどについても、ドラム缶に溜め、産業廃棄物として回収してもらっている。





総括

- 糸満市においては、造船所に対する苦情や水産業との間での環境面での問題は発生しておらず、造船所と水産・観光業とが漁船や観光船の修理の面で支え合う関係が構築されていた。
- 新糸満造船周辺では、鯛の養殖やイカの加工などが行われており、食品関係の工場も多く立地しているが、排水、粉じん、騒音など周辺事業所との間に環境に対する問題は認められなかった。
- 新糸満造船では、環境対策について建設段階から意識していたわけではなく、各種マニュアルについては、対応が必要な段階で都度策定していた。
- 環境測定などは行っておらず、また周囲の施設から環境対策についての話し合いの場を設けるような要請もないとのことであり、良好な関係が構築されていることが確認できた。
- 騒音、粉じん対策としての緑地丘陵帯は、糸満市役所、新糸満造船の双方が強調していた対策であり、視覚的効果からも有効であると感じた。
- 本市においては、防塵ネットの展張や、作業水の下水道接続など、新糸満造船では行っていない対策も検討されており、今回の視察結果を踏まえて更なる検討を行っていきたい。